



【柑橘】

——【温州みかん】——

施肥

○苦土タンカル 200kg/10a 酸性土壌の是正が目的です。

* 葉色の悪い園(微量要素不足の可能性あり)では、マルチサポート 80kg/10a を使用

整枝剪定(大津・青島) 2月中旬以降(厳寒期を過ぎた頃)から始めましょう。

大津・青島は大果系です。剪定量が多いと大玉果となります。

中玉果の生産のために隔年で管理方法を変えましょう。

① 表年の樹

ハサミ剪定を主体で主枝の切り下げ、下垂した枝の切返し、密生した夏秋梢の整理、強い夏枝の発生部からの除去等をしましょう。剪定量を増やすと大玉果の原因になります。剪定量は1割以下を目安とします。

② 裏年の樹(昨年着果が多かった樹)

ノコギリ剪定を主体に樹形を整えましょう。樹形は3本主枝の開心自然形が基本になります。

剪定量が多いと、翌年大玉果が増えますので、剪定量は2割以下を目安とします。

③ 共通

薬剤散布や収穫の作業性向上のため、樹冠内部への入り口を北側に作りましょう。

強い内向枝・病害虫被害枝・枯れ枝は除去しましょう。

【果樹】

縮間伐及び園地環境の改善

高品質果実の生産、低樹高化のためには、十分な樹間距離が必要になります。密植園では、樹高が高くなり作業性が低下し、また日陰になるため高品質果実の生産ができません。剪定に入る前に縮間伐をして十分な樹の間隔を確保しましょう。併せて、園地の防風林等の手入れもしましょう。

【水稻】

冬季耕うん 12月、1月に行っていない方は直ちに行いましょう。

冬季耕うんの主な目的は①～④となります。1～2回を目安に冬季耕うんをしましょう。

① 刈り株・ワラを分解します。*田植え直前(春)にすき込むと病害虫が発生しやすくなります。

② 病害虫の越冬場所になりやすい「ひこばえ」を除去します。(害虫を越冬させない)

③ 雑草の発生を抑えます。

草種により効果が異なりますが、多年生雑草の塊茎・種子を乾燥により減少させます。

*セリは春に耕うんすると、増えてしまいます。

④ 水稻除草剤の効果を安定させます。(田面が平らでないと効果が弱まります。)

スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)対策

ジャンボタニシ発生水田では、寒期にロータリー耕を行い貝を掘り起こし寒気にさらすとともに破碎します。作業速度を遅くしロータリーの回転数を高く浅めに耕うんすると効果が高まります。

【ジャガイモ】

畑の準備 2月中旬～3月上旬

○馬鈴薯専用配合 052 10kg/a 重焼リン 2kg/a 植付けの半月前までに全面施用し混和しておく

種イモの準備と植付け

植付け前に、一片 40～50g の大きさに切り 2～3 日程陰干しし切り口を乾かす

種イモ量の目安：15～16kg/a

○種イモの黒あざ病による腐敗防止 ベンレート水和剤

種イモ重量の 0.3～0.4% をまぶすと良い (例) 3～4g/種イモ 1kg

幅 60 ㍍程の畝に深さ 7～8 ㍍の溝を作り、種イモの切り口を下にして 30 ㍍間隔に植付ける

※気温が高くなる場合には、種イモの萌芽が進みやすくなります。種イモは通気性の良い容器に移し替え呼吸熱がこもらないようにし、温度 2～3℃ の暗所で保管しましょう。また、種イモの呼吸量が増加すると黒色心腐が発生しやすくなります。発生防止のため温度管理を徹底し高温を避け、換気を十分に行いましょう。

【キウイフルーツ】*下線部は重要防除です。必ず防除しましょう。

剪定

剪定が終了していない園は、速やかに剪定を終わらせましょう。

病害虫防除 3月中旬(発芽前)

○かいよう病 ICポルドー66D 50倍 2,000g/水 100㍍

○キウイヒメヨコバイ アグロスリン乳剤(劇) 収穫7日前 3回 2,000倍 50ml/水 100㍍

【う め】*下線部は重要防除です。必ず防除しましょう。

病害虫防除

1月～2月

○灰星病 (開花期始め) ベルクート水和剤 収穫30日前 3回 2,000倍 50g/水 100㍍
(満開期) オーシャイン水和剤 収穫前日 3回 3,000倍 33g/水 100㍍

※ 灰星病の罹病枝が分からない方は、最寄りの営農経済センターにご確認ください。また、十郎を栽培している場合は、十郎の開花状況に合わせてましょう。

※ 灰星病で枯れた枝は開花期までに剪除して、園内に残さないことが重要です。

3月上旬～3月下旬

○かいよう病 コサイド 3000 2,000倍 50g/水 100㍍

3月中旬～3月下旬

○アブラムシ類 スミチオン乳剤 収穫14日前 2回 2,000倍 50ml/水 100㍍
又は

チェス顆粒水和剤 収穫21日前 2回 5,000倍 20g/水 100㍍

○灰色かび病 ポリバリン水和剤 収穫30日前 3回 1,000倍 100g/水 100㍍

※ 灰色かび病の防除は、満開期・落弁期が目安となります。品種別に防除適期も異なります。適期の防除を心掛けましょう。

農業を使用する際は、適用作物・希釈倍数・使用回数・使用方法等の使用基準を遵守するとともに飛散防止に努め、ラベルをよく確認し、必ずラベルに基づいて使用しましょう。

肥料価格高騰対策事業の土壌分析についてお願い

肥料価格高騰による農業経営への影響緩和のため、化学肥料の低減に向けて取り組む農業者の肥料費を国・県が支援する肥料価格高騰対策事業が実施されています。本事業に定められている**取組メニュー項目**のひとつに「**土壌診断による施肥設計**」があることから、今後分析依頼点数の増加が見込まれています。分析依頼点数が増加した場合、分析に時間を要する可能性がありますので、ご面倒をお掛けしますが、下記の通りご協力をお願い致します。

①分析期間に余裕を持った土壌の提出

- ・通常より分析期間がかかることを想定し、早めに採取・検体の持ち込みをお願いします。
- ・可能な場合は、依頼点数が増加する繁忙期（12～3月）の提出は避けてください。

②リン酸・加里の2成分分析の実施

・診断をお急ぎの方は、従来の土壌分析約7項目の診断ではなく、2項目（リン酸・加里）のみ診断することも可能です。

③過去の診断データを利用する

・肥料価格高騰対策事業の取組として実施する場合は、直近の過去データ（土壌診断結果）に基づき、施肥設計を行っても対象となります。

【お願い】農薬は適正に使用しましょう！！

県内農産物において、農薬残留基準値超過事案が発生しています。（当JA管内ではありません。）定められた使用基準を守らない場合は「農薬取締法違反」となりますので、ラベルをよく確認し使用方法を守り生産履歴の記帳に努め安心安全な農産物の生産をお願いいたします。

～農薬事故はこうして起こる！発生事例～

○収去（食品衛生監視員が検査の為採取）した作物から適用のない農薬を検出（残留基準値超過）

→当該の作物には直接散布していないが、前日に他の作物に使用した散布器を洗浄不足のまま使用した。

（ホースは洗浄するが、タンクを洗う習慣がなかった。）

→当該の作物には直接散布していないが、隣接する他の作物に散布した農薬が飛散（ドリフト）した。

上記のようなことが原因となり農薬事故が起こります。農薬の登録を守って使用することはもちろん、散布器具の洗浄は念入りに、ドリフトには十分注意しましょう。同じ畑で複数の作物を栽培している場合や、圃場同士の距離が近い場合などはさらにドリフトの注意が必要です。

肥料価格高騰対策のご案内

肥料価格の高騰による農業経営への影響緩和のため、当組合より購入した肥料購入代金の20%を緊急支援いたします。

○対象となる肥料

令和4年11月～令和5年3月末までの予約注文（JAネットショップ、展示即売会含む）によりご注文頂いた配合肥料・化成肥料が対象です。

※石灰・堆肥類等の土壌改良剤は対象外です。

○支援対象のご購入者

予約注文でご注文頂いた請求金額が3,000円以上で、且つ上記期間中にご購入頂いた方が対象です。

※国の緊急支援金とは異なります。

○支援金

請求金額から値引額と消費税を除いた2.0%を支援いたします。

○支払期間

令和4年11月～令和5年3月末までの購入者…令和5年6月末まで

※入金前に案内文書をご通知させていただきます。

※申請手続きは必要ありません！ご購入頂いた代金の引落口座に自動入金いたします。